千客万来御礼！　分析イノベーション交流会

豊田 太郎，東海林 敦，菅沼 こと

分析化学の第一線で活躍する研究者・開発者の方々へ―他の企業や研究機関がもつ“ものつくり技術”や独創的で先進的な製品を活用できたら，自分達の仕事の可能性がもっと広がるのに―と思ったことはありませんか？　たとえば，大学では産学連携部門が窓口となり，問い合わせてきた企業側にシーズ技術をもつ研究室を紹介してマッチングさせることがあります．しかし，逆に企業のもつ“ものつくり技術”をシーズとして活用することが，研究開発上の困難な課題を解決する場合もあるのではないでしょうか．そのようなニーズとシーズの出会いの場を提供できればと私たちは考え，2019 年秋より分析イノベーション交流会を発足させました．2020 年 1 月のキックオフミーティングから，2023 年 9 月の日本分析化学会第 72 年会ジョイント開催「ものつくり技術交流会 2023 in 九州～分析に役立つ基礎技術～」まで，のべ 150 を超える企業・大学・研究機関・公設試験機関の方々より本交流会にご支援ご協力を賜りました．この場を借りて厚く御礼申し上げます．折角の寄稿の機会をいただきましたので，本交流会が次の 3 年間で目指している活動をここでご紹介いたします．

主な活動は，年 1 回の全国版（分析イノベーション交流会）と年 2 回（討論会や年会でのジョイント開催）の地域版（ものつくり技術交流会）の交流会を開催することです．新型コロナウイルス禍に大きくあおりを受けましたが，これまで私たちは，分析化学とは縁のなかった企業との新たなつながりをつくる機会を常に模索してきました．その結果，本交流会への参加人数も合計で 1000 名（対面・オンライン視聴を含む）を超えました．他分野の企業との交流の輪をさらに広げるべく，今後は自治体や商工会議所等にもはたらきかけてまいります．

一方で，参加・出展してくださる企業の方からは「こんなものをつくったが，どう使えるだろうか」「どういうデータであれば製品や技術の信頼力を高められるか」といった声が多数届いております．そうした声を展示会場で直接聞いて議論するだけでなく，日本分析化学会会員の皆様にいつでも企業連携や共同研究へのきっかけとしていただけるよう，ウェブサイトをつくることを予定しています．その先駆けとして，「分析化学」誌にて「分析イノベーション交流会」特集号を企画しております．出展くださった方々には是非ご投稿をお願いする次第です．また，ウェブサイトは，本交流会シーズ集のアーカイブを構築して自由にアクセスできるようにする予定です．一方で，展示交流会の会場では無料相談ブースを設置することも考えています．

最後は，若手の育成です．若手の研究者・開発者だけでなく，分析化学を学んでいる学生が本交流会に参加することで，産学官における研究者や技術者の多様なキャリアパスを実感してもらい，学生や若手研究者・開発者の繋（つな）がりを全国レベルで活性化したいと考えています．本交流会が学生にとって分析化学関連の企業に就職するきっかけとなることを願うばかりです．

このような活動により，長期的に本交流会は日本分析化学会の活性化に貢献できる存在となることを目指しております．

引き続き，皆様のお力添えを何卒よろしくお願い申し上げます．

〔Taro Toyota，東京大学，関東支部常任幹事
Atsushi Shoji，東京薬科大学，「分析化学」編集幹事，「ぶんせき」副編集委員長
Koto Suganuma，帝人株式会社，関東支部常任幹事〕